さいたま市スマートシティ推進事業（さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム）

様式１　1

大宮駅・さいたま新都心周辺地区を対象に、ICT×次世代モビリティ×複合サービスの提供や、サービスで取得するビッグデータの活用により、交通結節点とまちが一体となった「スマート･ターミナル･シティ」を目指す。
（※今回は「美園地区」と「大宮駅・さいたま新都心周辺地区」のうち「大宮駅・さいたま新都心周辺地区」を対象とする）

位置図

■本事業全体の概要

東日本の交流拠点都市として「**大宮駅グランドセントラルステーション化構想（ＧＣＳ構想）**」(※)が策定され、まちやインフラの機能高度化の機運が高まる中、**ビッグデータ活用による交通基盤整備**や、**シェア型マルチモビリティの充実**などをICTやビッグデータを活用して実現する**スマートインフラ**により更なる交通結節機能の向上を図り、交通結節点とまちが一体となった「**スマート・ターミナル・シティ**」を目指す。

次世代型ターミナル・シティ計画立案（スマートプランニング）

人流データ

都市オープンデータ

さいたま版スマートインフラモデルの提案

- ビッグデータ活用による交通基盤整備（GCS、バスターミナル等）
- シェア型マルチモビリティの充実（周遊空間の整備、回遊性の向上）

データ活用

データプラットフォーム

- モード別移動軌跡データ
- 建物・インフラデータ
- 市民の健康情報
- 共通プラットフォームさいたま版の広域展開

データ提供　データ提供　データ提供

シェア型マルチモビリティ自動運転サービス

- 移動軌跡データ（小型EV、シェアサイクル等）
- 最適配置されたデポの稼働状況データ
- 自動運転の乗降人数
- 自動運転やシェアモビリティからの渋滞情報

MaaS＋（プラス）

- 移動ニーズ（OD希望）情報
- 店舗や注文商品（書籍等）予約情報
- 乗降決済情報

健康マイレージ（歩行者・自転車）

- 移動軌跡データ（歩行・自転車）
- 健康データ

シェアモビリティ（HELLOCYCLING）
© OpenStreet co,Ltd

自動運転
マイクロモビリティ

Strolyマップ

健康ポイントとの連携

■対象区域の概要

名称：大宮駅･さいたま新都心周辺地区
面積：12.8㎢（大宮区）
人口：117,468人（大宮区、2020年4月推計）

■対象区域のビジョン

1）GCS構想(※)

① 「東日本の玄関口」として東日本全体の発展を牽引
② 東京一極集中に伴う日本経済の災害リスク軽減とともに、安心･安全な市民生活を持続
③ 多彩な地域資源や空間の良さを生かしながら、これからの働き方やライフスタイルを先導･提案し、市域全域に波及

2）さいたま新都心将来ビジョン

① 広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち
② 広域的な安心･安全を担うまち
③ 豊かなみどりと都市機能が融合するまち

さいたま市スマートシティ推進事業 （さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム）

■ スマートシティの目標(KPI)

KPI項目	目標・設定値
交通結節点の利便性向上	• 交通の利便性が高いまちと感じる人の割合 77.0% →（検討中）
エリアの回遊性向上	• シェアモビリティ利用回数 約27,000回※ → 540,000回/年 （※2018年11月～2019年1月）
市民の健康促進	
大宮～新都心の地区間連携強化	• 移動サービスの選択肢 実証実験 → 社会実装

※今後、取得していくデータ等に基づいて設定する予定

■ 運営体制

■ 導入技術

1. シェア型マルチモビリティ・自動運転サービスの導入

○ 大宮駅・さいたま新都心周辺の在勤・在住者等の生活利便性を向上する多様なモビリティの導入、デポの最適配置の実証

○ 大宮駅・さいたま新都心周辺地区を回遊する自動運転車の実証実験※との連携

※同時期に別プロジェクトとして実施予定

© OpenStreet co,Ltd

2. ライフサポート型MaaS（おおみやMaaS）の導入

○ 移動＋買物等の検索・予約・サービスを提供するライフサポート型MaaSの実証

○ サービスで取得したビッグデータのインフラ整備への活用など、スマートプランニングに向けたPDCAの構築

3. 次世代の都市インフラ整備へのスマートプランニングの適用

○ 人流データやおおみやMaaSのビッグデータの取得・分析により、バスベイのフレキシブルな活用でコンパクト化した「スマート駅前広場」などを計画

さいたま市スマートシティ推進事業 （さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム）

■ビジネスモデル

＜データプラットホームを活用したビジネスモデル案＞

- 官民連携組織である「さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム」が一体となり、交通、買物、観光等の情報検索や予約、サービスを享受できるMaaSを実証し、サービスで取得したデータをプラットフォームに集約。
- 行政は、インフラ整備や防災等の都市情報を提供し、民間事業者はサービス開発等に、プラットホームのデータを活用。

■スケジュール

R2年度：シェアモビ・自動運転の導入、プラットフォームの検討　等
R3年度：MaaS連携、健康マイレージ実証実験、各種データ連携　等
R4年度：データ連携の拡大、スマートインフラ、防災との連携　等
R5年度：美園スマートシティプロジェクトとの連携、サービス統合　等
R6年度～：運用開始

	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度～
①さいたま版スマート・インフラモデル		スマートインフラ実証実験	技術基準等の検討	インフラ計画への適用	
②安全確保計画と連携した強靭なまちの実現		サイネージ・独立型電源装置実証		運用開始	
③シェア型マルチモビリティサービス	シェアモビ・自動運転実証・デポ整備	車種・デポの拡大		本格運用開始	
④MaaS＋（プラス）	シェアモビリティ・商業連携	既存公共交通連携	移動型サービス支援	サービス統合	運用開始
⑤健康マイレージ	連携モデル検討	実証実験	データ連携	スマートプランニングへの活用・運用開始	
⑥データプラットフォーム	プラットフォーム検討	③～⑤のデータ連携	スマートインフラへの適用	美園との連携	運用開始

さいたま市スマートシティ推進事業 （さいたま市スマートシティ推進コンソーシアム）

■ まちの将来像 ※大宮GCSプラン2020（案）のまちの将来像イメージに加筆して作成